



みやぎ視能訓練士の会
The Association of Miyagi Orthoptists



10月号の会報をお送りします。

～内容～

- | | | |
|---|----------------------------|----|
| ① | <報告>3歳児健診屈折検査勉強会報告 | P2 |
| ② | <お知らせ>北海道・東北視能訓練士合同研究会お知らせ | P3 |
| ③ | <お知らせ>子どもの目の健康を守るための啓発活動 | P4 |
| ④ | <お知らせ>千葉大のニュースリリース | P5 |

★☆☆会報、その他に関するお問い合わせ

koho@myg-ort.com

☆☆★会員記録や登録アドレスに関するお問い合わせ

j.ort@myg-ort.com

★☆☆会費に関するお問い合わせ

kaikei@myg-ort.com



10月

いよいよ始まります！
視能訓練士による
3歳児健診 屈折検査



3歳児健診屈折検査 勉強会報告

日時：2023.09.19. 19:00～20:45

会場：仙台市医師会館

参加者：17名

10月より3歳児健康診査に視能訓練士が加わります。
活動開始前に勉強会を開催しました。

3歳児健診の流れの説明、スポットビジョンスクリーナーの体験を行いました。

今年度、初めての試みです。

緊張もありますが、視能訓練士が新しい事業に加われることにわくわくしています。

来年度以降の参加者も随時募集します！
興味のある方はぜひお問い合わせ下さい。

問い合わせ：二本柳

nihonya@tech.tbgu.ac.jp

文責：太田



WELCH ALLYN
Spot
Vision
Screener

令和5年9月28日

北海道・東北視能訓練士会
合同研究会組織団体の会員各位

北海道・東北視能訓練士会合同研究会 実行委員会
第4回実行委員長 太田 五月

第4回北海道・東北視能訓練士会合同研究会のご案内

拝啓 皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、3年前より北海道・東北の7つの視能訓練士会で年に1度の合同研究会を開催しておりますが、今年度は12月に以下の要領にて開催する運びとなりました。

つきましては、ご多忙中の折とは存じますが、充実した研究会となりますよう準備を進めて参りますので、皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。 敬具

記

日 時：令和5年12月10日(日) 10:00~13:00

方 法：現地開催(仙台)とWEB開催(ZOOM)

主 催：北海道・東北視能訓練士会合同研究会 実行委員会

内 容：テーマ「フレイル」

講演Ⅰ：「アイフレイルへのプチビジョンケア」

かとう眼科医院 院長 加藤圭一先生

講演Ⅱ：「口腔機能が全身の健康を左右する？ーオーラルフレイルの基礎知識ー」

宮城県歯科衛生士会 小原由紀先生

講演Ⅲ：「視覚の質とフレイル」

北里大学医療衛生学部視覚機能療法学 准教授 川守田拓志先生

対 象：視能訓練士・その他希望者

参加費：合同研究会組織団体の会員 無 料

非 会 員 1,980円 参加費入金専用サイト (Peatix 利用)

登録フォーム内のご案内しております

参加登録：下記の URL 登録フォームか QR コードよりお入りください

<https://forms.gle/X5UcjsTjtcaEexo79>



登録期間：2023年10月01日(日)～11月25日(土) 23:59まで

※ 本企画は、以下の7団体による合同企画です ※

北海道視能訓練士会 ・ 青森視能訓練士の会 ・ 秋田県視能訓練士会 ・ いわて視能訓練士の会
みやぎ視能訓練士の会 ・ 山形視能訓練士の会 ・ ふくしま視能訓練士の会

子供の目の健康を守るための啓発資料についてお知らせします。各学校において適宜御活用ください。

事務連絡
令和5年9月1日

各都道府県・指定都市教育委員会総務課・学校保健担当課
各都道府県私立学校主管部課
附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務主管課
小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を
受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課

御中

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

子供の目の健康を守るための啓発資料について（情報提供）

学校保健統計調査結果によると、裸眼視力1.0未満の児童生徒の割合は、調査開始の昭和54年から一貫して増加傾向にあります。このような状況を踏まえ、文部科学省では、児童生徒の視力低下の実態を把握するため、令和3年度より、児童生徒の近視実態調査事業を実施しているところです。

今般、当該事業の一環として、子供の目の健康を守るための啓発資料（別添1及び別添2）を作成しました。別添1は主に児童生徒向け、別添2は主に保護者向けとなっております。文部科学省ホームページ（https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kenshoku-000013234_1.pdf）にも掲載していますので、各学校において御活用いただくようお願いします。

以上について、都道府県・指定都市教育委員会におかれては所管の学校及び域内の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校主管部課におかれては所轄の学校法人等を通じて、その設置する学校に対して、附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務主管課におかれてはその設置する附属学校に対して、小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては所轄の学校設置会社及び学校に対して、周知されるようお願いします。

<本件連絡先>
文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
03-5253-4111（内2918）



別添1、2はホームページで閲覧できます。

乳幼児期の子どものテレビ・DVDの視聴時間と発達の間接的な関係が明らかに ～1歳の視聴時間も発達に影響する～

■研究の概要：

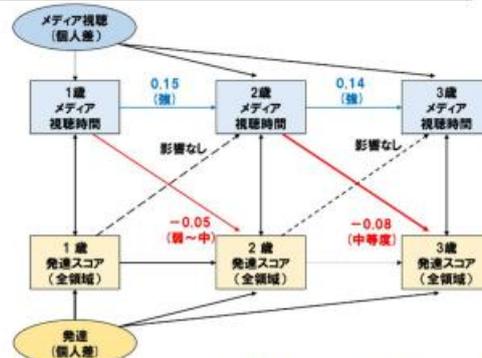
千葉大学予防医学センターの山本緑助教と、国立成育医療研究センターエコチル調査研究部の目澤秀俊チームリーダーらの研究グループは、テレビ・DVD視聴時間（メディア視聴時間）と発達について個人差を調整した上でも、乳幼児期のメディア視聴時間と子どもの発達が関連するかどうかを調査しました。（ランダム切片交差遅延パネルモデル^{注1}にて検討）

その結果、メディア視聴時間が長くなると、子どもの発達スコア^{注2}が低くなる影響を1歳から2歳、2歳から3歳の子どもに対して一貫して認めました。しかし、1歳から2歳は2歳から3歳に比べ弱い影響でした。

発達領域ごとの影響を見ると、1歳から2歳はコミュニケーション領域へ影響があったのに対し、2歳から3歳では粗大運動、微細運動、個人-社会の3つの領域への影響があることが分かりました。また、コミュニケーション領域の発達スコアが高いと、1年後のメディア視聴時間が短くなる影響を1歳から2歳、2歳から3歳ともに認めました。

本研究の結果は、国際的な医学雑誌 *JAMA pediatrics* に2023年9月18日に掲載されました。

※本研究は環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」のデータを用いた研究です。本研究の内容は、すべて著者らの意見であり、環境省の見解ではありません。



【図1：メディア視聴時間と発達スコアとの関連（ランダム切片交差遅延パネルモデル）】

■プレスリリースのポイント：

- 日本の子どもの1、2、3歳時点で、発達やメディア視聴時間の個人差を考慮しても、それぞれに影響があるかを検討しました。
- メディア視聴時間が長くなると、1年後の発達スコアが低くなる影響が弱から中等度の強さで1歳から2歳、2歳から3歳で一貫して認めました。
- 発達領域（コミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人-社会）ごとに見ると、メディアの視聴時間が長くなると1歳から2歳ではコミュニケーション領域のみ、2歳から3歳では粗大運動、微細運動、個人-社会の3領域で発達スコアが低くなりました。（表1）
- 上記とは逆に、コミュニケーション領域の発達スコアが高いとメディア視聴時間が短くなる影響を、1歳から2歳、2歳から3歳に一貫して認めました。
- 子どもの発達スコアを高くする育児環境要因として、年上の兄弟、保育園の利用、子どもへの読み聞かせを示しました。

記事の続きはホームページで閲覧できます。



施設紹介は
お休みです。



<https://myg-ort.com/>

ホームページを閲覧するには、
メールおよび LINE で送信され
るパスワードが必要です。